

## 法人向けクラウド・インテグレーターのリーディングカンパニー

生成AIとセキュリティに焦点を当てた新サービスをリリース

### SUMMARY

- ▼ SIRによる前回の4Qフォローアップレポートでは、「Copilot for Microsoft 365」を企業が導入する際のユーザーガイドとしてJBSが動画と概要資料にまとめて11月にリリースした「Copilot NAVI」を考察した。「Copilot for Microsoft 365」とは、「Microsoft 365」のアプリケーションに組み込まれた画期的なAIツールで、ユーザーの指示や質問に対してチャットインターフェースで効率的に回答をもたらすものだ。JBSは「Copilot NAVI」のフォローアップとして、「Copilot for Microsoft 365」の導入前にインタラクティブに体験できるワークショップを12月にリリースした。
- ▼ 本レポートでは、クラウドITシステム管理者にとって最優先事項である企業のクラウドセキュリティにおけるJBSの取り組みを考察する。2023年10月31日、JBSはサイバーセキュリティのスペシャリストであるS&J株式会社と共同で、各種セキュリティ機器やネットワーク機器、サーバを監視し、これらの機器から出力されるログを分析して、サイバー攻撃発生時の影響範囲を特定し、さらにサイバー攻撃を未然に防ぐためのセキュリティ対策を立案する「JBS SOC」(Security Operation Center)を、「Microsoft 365」に加え業界初となる「Microsoft Azure」まで統合監視対象として提供・開始すると発表した。2024年1月16日には、「Microsoft Azure」環境に存在するIDやクラウド基盤、リソースに対する脅威を検知・防御するための顧客独自のセキュリティソリューションを、最短3週間で導入・自社運用できる「スマートスタート for Microsoft Azure Security」サービスの開始を発表した。
- ▼ 24/9期初のガイダンスは、売上が前年同期比12.4%増、EBITDAが同24.7%増、営業利益が同21.6%増で、年間配当は20.0円から25.0円(配当性向33%)に増配される。同業他社がまだ無配の中、PERは17.8倍、配当性向33%など、バリュエーションは類似企業に比べ魅力的に見える。

### 🛡️ JBS、法人向けクラウドセキュリティソリューションの需要が旺盛



### 1Q Follow-up



#### Focus Points:

独立系クラウドインテグレーター。マイクロソフトのクラウドサービスを中核として、顧客がDXの戦略目標を最大限に達成できるコンサルティングとITサービスを提供している。

#### 主要指標

株価(3/13)	1,435
昨年初来高値(23/2/6)	1,970
昨年初来安値(23/9/14)	992
10年間高値(22/11/16)	2,115
10年間安値(22/8/2)	901
発行済株式数(百万株)	48.366
時価総額(十億円)	70.179
EV(十億円)	72.377
自己資本比率(12/31)	42.2%
24/9 PER(会予)	19.2x
24/9 EV/EBITDA(会予)	11.7x
23/9 ROE(実績)	16.0%
23/12 PBR(実績)	2.95x
24/9 DY(会予)	1.72%

#### 6ヶ月株価日足



アナリスト  
クリス・シュライバー CFA  
[research@sessapartners.co.jp](mailto:research@sessapartners.co.jp)



本レポートは当該企業からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレマーをご覧ください。



## 生成AIとセキュリティのサポートに注力 クラウドサービスは案件単価の上昇で売上総利益率が改善

### サマリー

▼ 日本ビジネスシステムズ（JBS）は、2月13日（火）15:00に24/9期1Q決算を発表した。主な実績は、売上高が前年同期比11.8%増、EBITDAが同11.3%増、営業利益が同4.3%増だった。クラウドインテグレーション事業は、プロジェクトが好調に推移したものの、一部案件の納期変更や納期延長によりコストが増加し、利益率が一時的に悪化した。クラウドサービス事業は、主要顧客向けの販売強化や新規顧客の獲得により増収となり、売上総利益率は案件単価の上昇により改善した。ライセンス&プロダクツ事業は、顧客企業によるクラウドコンピューティングの利用拡大により、ライセンスの販売単価が上昇し、利益率が改善した（下表参照）。

▼ 営業利益の伸びが一桁%前半と低調で、また営業利益率が低下したことは、事業体制強化のための販管費（人件費、採用費、家賃など）が26.7%増加したことに加え、ネクストスケープの子会社化に伴う費用が発生したためである。JBSは1Qに生成AIとセキュリティ関連サービス（左図参照）をリリースしたが、旺盛な需要を背景に顧客からの問い合わせが増加した。2024年4月には本社を虎ノ門ヒルズステーションタワーに移転し、“Cloud Park”をコンセプトに、最新のクラウドソリューションを気軽に体験できるエリアを提供する予定である。

### 24/9期 1Q サービスのリリース

#### ●生成AI

#### 2023/11 Copilot NAVI

Copilot for Microsoft 365の徹底的な活用を促し、企業のデジタル変革を加速するためのサポートサービス

→ 顧客からの問い合わせ、注文ともに好調な滑り出し

#### 2023/12 アドバイザリー ワークショップ for Microsoft Copilot

インタラクティブなコミュニケーションをとりながら、具体的な利用シーンを確認

→ 顧客に順次提案中

#### ●セキュリティ

#### 2023/10 JBS SOC

Microsoft Azureでも統合監視が可能な業界初のセキュリティ監視サービス

→ 大手企業からの初受注

#### 2024/01 スマートスタート for Microsoft Azure Security

ID、クラウド基盤、リソースに対する脅威を検知し防御するためのソリューションを最短3週間で社内を導入・運用

→ 顧客に順次提案中

#### クラウドセキュリティ診断 for Microsoft 365

世界標準のCISベンチマークを活用してJBSとGSXが顧客のMicrosoft 365の設定状況を短期間で診断し、情報漏洩やデータ破壊のリスクにつながるような不適切な設定を検出、企業に潜むセキュリティ課題の可視化や、適切な対策・対処をガイドする。

### JBS 24/9期 1Q連結決算業績

百万円、%	FY23/9	FY24/9	YoY	YoY	FY24/9	YoY	YoY
[J-GAAP]	1Q 実績	1Q 実績	金額	%	期初予想	金額	%
売上高	23,154	25,883	2,729	11.8	126,800	14,000	12.4
・クラウドインテグレーション	4,888	5,653	765	15.6	24,200	1,185	5.1
・クラウドサービス	3,678	4,395	717	19.5	18,400	3,011	19.6
・ライセンス&プロダクツ	14,584	15,832	1,248	8.6	84,200	9,819	13.2
売上高内訳(%)							
・クラウドインテグレーション	21.1%	21.8%			19.1%		
・クラウドサービス	15.9%	17.0%			14.5%		
・ライセンス&プロダクツ	63.0%	61.2%			66.4%		
売上総利益	2,934	3,466	532	18.1	15,600	2,523	19.3
売上総利益率(%)	12.7%	13.4%			12.3%		
販管費	1,806	2,289	483	26.7	10,500	1,616	18.2
売上高比率(%)	7.8%	8.8%			8.3%		
EBITDA	1,246	1,387	141	11.3	6,200	1,227	24.7
売上高比率(%)	5.4%	5.4%			4.9%		
営業利益	1,127	1,176	49	4.3	5,100	908	21.6
営業利益率(%)	4.9%	4.5%			4.0%		
・クラウドインテグレーション	723	703	(20)	(2.7)	3,920	383	10.8
・クラウドサービス	503	665	162	32.2	2,050	67	3.3
・ライセンス&プロダクツ	531	582	51	9.7	2,860	815	39.8
調整	(632)	(777)			(3,730)		
セグメント利益率(%)							
・クラウドインテグレーション	14.8%	12.4%			16.2%		
・クラウドサービス	13.7%	15.1%			11.1%		
・ライセンス&プロダクツ	3.6%	3.7%			3.4%		
経常利益	1,106	1,152	46	4.1	5,100	751	17.3
売上高比率(%)	4.8%	4.5%			4.0%		
親会社株主に帰属する当期純利益	684	680	(4)	(0.7)	3,450	100	3.0
1株当たり配当金(¥)					25.00	5.00	25.0
配当性向(%)					33.0%	6.0%	

出所：同社IR決算説明会資料および決算短信よりSIR作成



**セグメント情報:  
報告セグメント別売上高および利益(損失)**

(注1)報告セグメントごとの売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を除く外部顧客に対する売上高である。

(注2)セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(注3)セグメント利益の調整額は、のれん償却額および各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

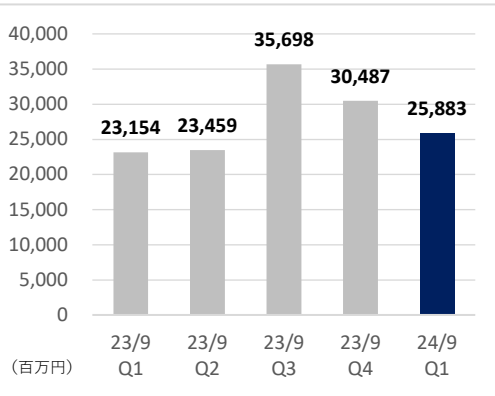
**クラウドインテグレーション事業**

●クラウドインテグレーション事業は、プロジェクトが好調に推移したものの、一部案件の納期変更や納期延長によりコストが増加し、利益率が一時的に悪化した。

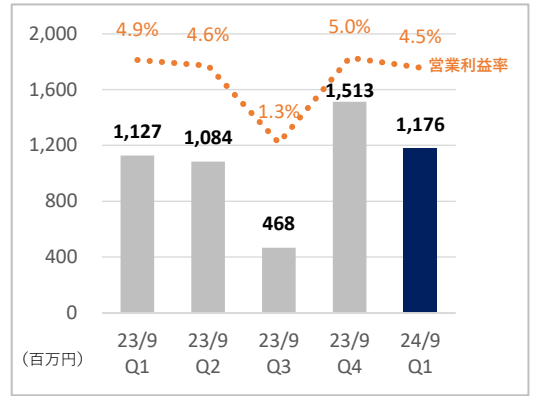
**クラウドサービス事業**

●クラウドサービス事業は、主要顧客向けの販売強化や新規顧客の獲得により増収となり、売上総利益率は案件単価の上昇により改善した。

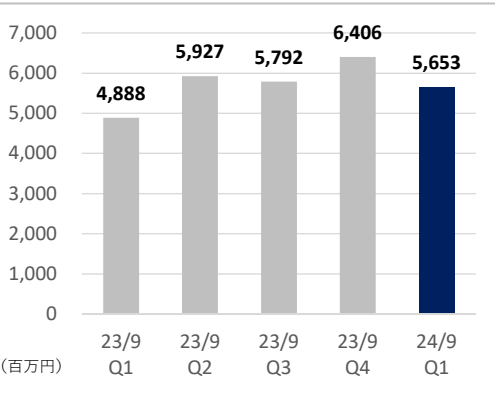
**JBS 1Q 連結業績 売上高 +11.8% YoY**



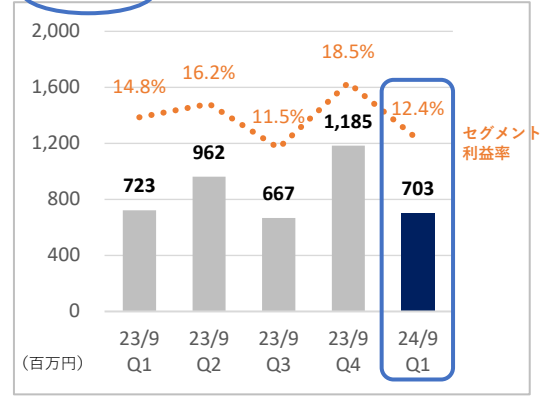
**JBS 1Q 連結業績 営業利益 +4.3% YoY**



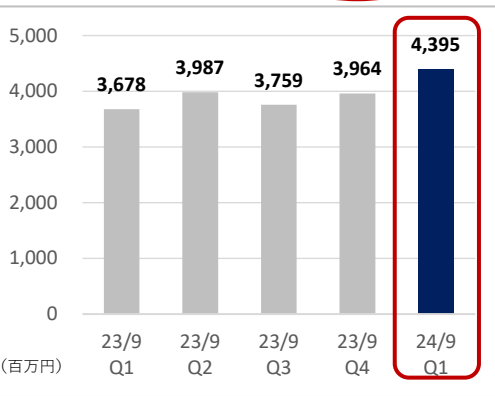
**クラウドインテグレーション 1Q 売上高 +15.6% YoY**



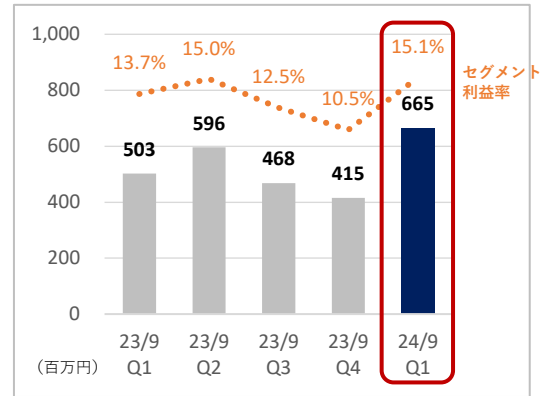
**クラウドインテグレーション 1Q セグメント利益 -2.7% YoY**



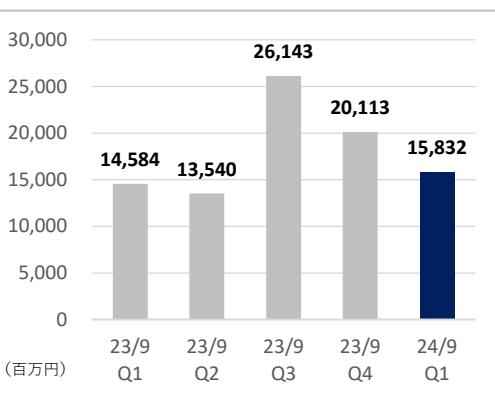
**クラウドサービス 1Q 売上高 +19.5% YoY**



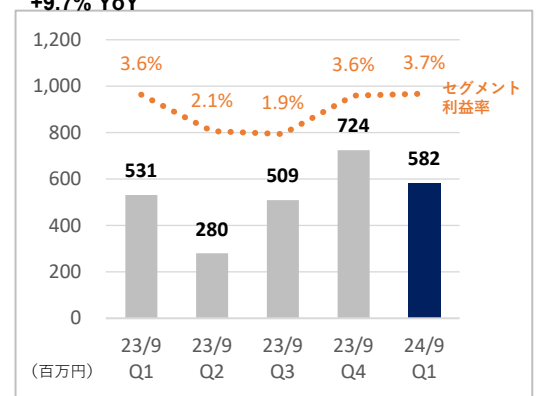
**クラウドサービス 1Qセグメント利益 +32.3% YoY**



**ライセンス&プロダクツ 1Q 売上高 +8.6% YoY**



**ライセンス&プロダクツ 1Qセグメント利益 +9.7% YoY**



出所：同社IR決算説明会資料および決算短信よりSIR作成。





JBS 企業クラウド  
セキュリティの  
取り組み

## JBS と S&J、「JBS SOC\*」を共同で開発・提供開始

業界初となる「Microsoft Azure」まで統合監視を可能にしたセキュリティ監視サービス

▼ JBSは2023年10月31日、JBSとサイバーセキュリティのスペシャリストであるS&J株式会社は、「Microsoft 365」に加え業界初となる「Microsoft Azure」まで統合監視対象とするセキュリティ監視サービス「JBS SOC (Security Operation Center)」の共同開発・提供の開始を発表した。SOCは、各種セキュリティ機器やネットワーク機器、サーバを監視し、これらの機器から出力されるログを分析し、サイバー攻撃発生時の影響範囲を特定して、さらにサイバー攻撃を未然に防ぐためのセキュリティ対策を立案するサービスである。

### 背景

▼ 昨今の業務システムのクラウド化とともに、サイバー攻撃の標的はクラウドに移行しており、その対策として「Microsoft 365 E5 Security」や「Microsoft Defender for Cloud」といったセキュリティソリューションを導入する企業が増えている。しかし、多くの企業はこれらのシステムの運用経験が少なく、高度化するセキュリティ対策のためにはセキュリティの専門家が必要になっている。このような課題に対し、これまで多数の「Microsoft 365」や「Microsoft Azure」のセキュリティ案件・運用を手掛けてきたJBSと、豊富なセキュリティ事故対応経験に裏打ちされた脅威分析力とアドバイス力を強みとし、セキュリティ運用・監視を専門とするS&Jが、「Microsoft 365」「Microsoft Azure」を統合監視対象とした業界初の「JBS SOC」を共同開発した。

### 「JBS SOC」の特徴

- ▼ 「Microsoft 365 E5 Security」と「Microsoft Defender for Cloud」で検知されたアラートをセキュリティアナリストが24時間365日で監視する。あらかじめ顧客の環境を把握したうえで、「Microsoft Sentinel (オンプレミス、クラウドのデータ収集、分析、セキュリティ情報とイベント管理のソリューション)」を活用し、「Microsoft 365」「Microsoft Azure」のログとファイアウォール、プロキシといった通信系ログなどを相関分析することにより、脅威の影響度を判断する。アラートは対処が必要なもののみを通知する。
- ▼ またJBSの強みを生かし、「Microsoft 365 E5 Security」「Microsoft Defender for Cloud」の機能を活用した脅威への対処、アラート検知精度向上、既知の脅威をブロックするためのチューニングを実施、さらに月次で監視状況や顧客環境のセキュリティ状態を評価し、改善案を提示する。

### 今後の展望

▼ 「JBS SOC」は今後、アラート監視対象をファイアウォールやプロキシなどの通信系ログ、マルチクラウド (様々なパブリック・ベンダーが提供する複数のクラウドサービスを単一のヘテロジニアス・アーキテクチャで利用し、クラウド基盤の能力を高め、コストを最適化する企業) まで広げることにより、「Microsoft 365」「Microsoft Azure」のセキュリティ統合監視から、顧客の環境全体のセキュリティ統合監視を目指していく。





## JBS、「スマートスタート for Microsoft Azure Security」サービスをリリース

— ID、クラウド基盤、リソースの脅威検知・防御ソリューション、最短3週間で導入・自社運用を実現

- ▼ 2024年1月16日、JBSは「Microsoft Azure」環境に存在するIDやクラウド基盤、リソースに対する脅威を検知し防御するための顧客独自のセキュリティソリューションを、最短3週間で導入・自社運用できる「スマートスタート for Microsoft Azure Security」サービスを発表した。このサービスは、これまでのJBSの「Azure」導入・運用実績から導き出したベストプラクティス（=推奨構成）に基づき、顧客の環境に最適な設計でセキュリティ対策を実装する。
- ▼ ヒアリングシートの記入後、最短3週間で構築が完了し、導入後も運用手順書に沿って顧客自身での運用を可能にする。セキュリティに関する専門知識がなく、手順書があっても自社運用はハードルが高いのではないかとの懸念を抱く顧客が多い中、JBSが提供する運用手順書は、製品の基本操作から運用の中で発生するチューニング方法、セキュリティインシデント発生時の対応例までを網羅している。

### サービス開発の背景

- ▼ サイバー攻撃が高度化する中、クラウドシステムの普及によって企業が自社でセキュリティ対策を行うのは困難な状況となっている。ユーザーにとっては場所を選ばずにどこでも働ける環境が手に入る一方で、管理者にとってはゼロトラストの実現や、クラウドシステム自体のセキュリティ向上など、山積する課題に対し、「対策コストがどの程度かかるのか」「どこから対策をスタートすればよいのか」「実装しても運用できるか」などの懸念が挙げられている。
- ▼ そういった中、2021年1月、JBSは企業の「Microsoft 365」のIDやデバイス、アプリケーションを対象としたサイバー攻撃をブロック・検知する機能を短期間で実装する「スマートスタート for Microsoft 365 E5 Security」をリリースし、多数の顧客に利用されている。加えて、「Microsoft 365」だけでなく「Azure」に移行したシステムに対してもセキュリティの懸念を抱く企業が多く、また早急な対策が求められている状況を踏まえ、JBSはベストプラクティス設計を定型化したサービスをリリースすることとした。

### 「スマートスタート for Microsoft Azure Security」で実現する各種対策

- ① ID に対する脅威：侵入対策、特権保護
- ② クラウド基盤に対する脅威：ポスチャ（サイバーセキュリティに対する全体の準備状況）管理、脆弱性対策
- ③ リソースに対する脅威：マルウェア対策、不正操作検知



## JBS、GSXが「クラウドセキュリティ診断 for Microsoft 365」を共同提供 ～多様化するサイバー攻撃に対し世界標準のガイドラインに準拠したサービス～

2024年2月29日、JBSとサイバーセキュリティ教育カンパニーであるグローバルセキュリティエキスパート株式会社（以下GSX、証券コード：4417）は、協業の第一弾として、CISベンチマーク™\*に準拠したサービス「クラウドセキュリティ診断 for Microsoft 365」の提供を開始すると発表した。

▼ DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展に伴い、外部からのサイバー攻撃は多様化・高度化している。企業は適切な対策・措置を講じる必要があり、JBSとGSXは、Microsoft 365の設定状況を診断し、情報漏えいやデータ破壊のリスクにつながる不適切な設定を洗い出し、セキュリティ課題の可視化と適切な対策・対象を提供する。

\*Center for Internet Security, Inc. (CIS®) は、協力とイノベーションというコアコンピテンシーを通じて、人々、企業、政府の接続された世界をより安全な場所にすることを目指している。CISは2000年にワシントンD.C.で設立されたコミュニティ主導の非営利団体である。世界的に認知されているCISコントロール®とCISベンチマーク™というセキュリティに関するベストプラクティスはCISにより策定された。CISはこれらを継続的に進化させるためのグローバルなIT専門家のコミュニティを主導し、新しい脅威に対して予防的な対策を提供するための製品とサービスを提供している。

### 背景と課題

▼ DXを推進する上で欠かすことのできないクラウドサービスは、日々機能拡張など進化しており、最新状態への更新に伴うリスクの把握と安全性の確保が必要不可欠である。また、外部要因だけでなく、内部で発生する故意のシステム被害やうっかりミスによる情報漏えいリスクにも備える必要がある。一方で、以下のような悩みを持つITシステム管理者も多い。

- 高度化するサイバー攻撃に対し、現状の設定環境で耐えられるかが判らない
- 日々新しい機能がアップデートしていく中、把握・理解が追い付かない
- そもそも既存の設定状況が把握できていない
- セキュリティ知見者が不在、もしくは不足していてセキュリティ面でのチェックができない

▼ JBSとGSXは、このような企業を支援するため、顧客に代わって短期間でMicrosoft 365の設定状況を診断、情報漏えいやデータ破壊のリスクにつながるような不適切な設定を検出し、企業に潜むセキュリティ課題の可視化や、適切な対策・対処をガイドするサービスを共同で開発・提供することにした。

### サービス内容

▼ スタンダードとアドバンスの2種類のプランがある。スタンダード版では、国内外の多くの企業で採用されているCISベンチマークを活用し、GSXが現状の把握と分析および対応策を含めた診断結果を作成・提供する。また、顧客が保有するシステムに対して、以下を明確にする：1) 外部からの攻撃に現行のシステムが耐えられるか、2) 内部犯行による情報の持ち出しが可能か、3) 悪意のある行為によるデータ改ざん・破壊に対する復旧が可能か。

▼ アドバンス版では、スタンダード版でGSXが行った診断結果をもとに、JBSが「Microsoft 365」の利用状況を細かく分析し、対策実施事項と手順を提示、ディスカッションを通して改善をサポートする。本サービスメニューでは、JBSとGSXがそれぞれの技術力を活かし、シナジーを創出することが期待される。




虎ノ門ヒルズステーションタワー  
20、21階 虎ノ門二丁目6番1号

## JBS、虎ノ門ヒルズステーションタワーに本社を移転（2024年4月）

### — “最新のクラウド体験×人と人のつながり” がイノベーションを生む“Cloud Park”

▼ JBS のMission（企業理念）は、「優れたテクノロジーを、親しみやすく」である。今回開設する新本社は、「最新のクラウドソリューション×人と人のつながり」によってイノベーションが生まれる場＝“Cloud Park”をコンセプトとしている。また、訪問者が気軽に最先端のクラウドソリューションに触れられるエリアを設け、クラウド活用による新たなアイデアやビジネス創出につながるコンテンツを提供する。来訪者やパートナー企業のビジネスパーソン、また社員やその家族が、併設するカフェ＆ダイニング「Lucy's Tokyo」の利用と共に、集い行き交うコミュニケーションプレイス＝“Park”（公園）を実現した。SIRのフォローアップ取材によると、移転後も現在のオフィススペースを維持し、新本社を増床することになるといふ。

### イノベーションを生み出すクラウドコンテンツの提供

▼ 新本社では、「Cloud Technology」、「Market Trend」、「Advanced Ventures」、「Use Cases」を柱としたコンテンツを提供し、ビジネスユーザーが最先端のクラウドソリューションを体感し、オープンに議論できる場を目指す（\*開所後順次スタート予定）。JBSは技術革新がもたらす企業・社会の持続的成長に貢献できる企業であることを目指し続ける。

### コミュニケーション活性化を実現するカフェ＆ダイニング「Lucy's Tokyo」

▼ 「Lucy's」は、既存の社員食堂の概念を払拭した一流のダイニングとして、社員のエンゲージメント向上、顧客やパートナーとの関係を深める場としてJBSが自社運営するレストランである。「Lucy's Tokyo」が新しくオープンしたことにより、既に運営中の「Lucy's CAFE & DINING」（現本社 虎ノ門ヒルズ 森タワー内）、「Lucy's Nagoya」（中部事業所）、「Lucy's Osaka」（西日本事業所）においても共に活気づいた場となるだろう。



出所：JBSプレスリリース（2024年1月11日）よりSIRが編集





株価はわずかな通期下方修正が発表された9月19日直前の安値から反発

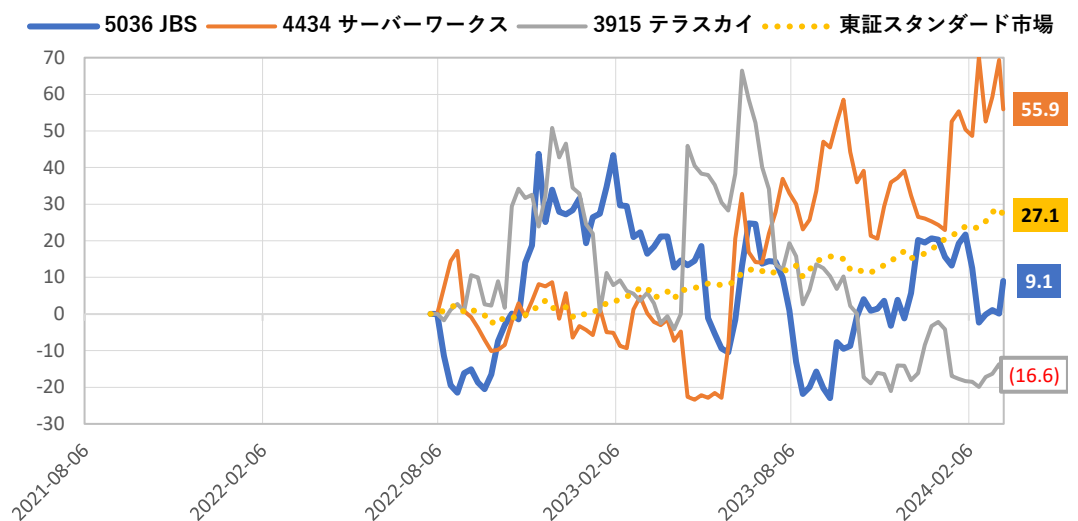
●23/9期通期営業利益の9.6%下方修正は、3Qまでの進捗率から推測されていたほど大きくなかった。24/9期の期初ガイダンスは売上高が前年同期比12.4%増、EBITDAが同24.7%増、営業利益が同21.6%増となり、年間配当は20.0円→25.0円配当性向33%)に増配される想定。類似企業がまだ無配の中、PERは17.8倍、配当性向33%など、類似企業に比べ、魅力的なバリュエーションだ(右記参照)。

●クラウドDXの成長ストーリーに加えて、ネクストスケープ社とのグループシナジー効果を実現して市場シェアを獲得したことや、法人向けのグローバルライセンスやAIソリューションの提供を開始したこともJBSの魅力あるストーリーであるとSIRは考える。

1年間週足株価推移、13週/26週/52週 移動平均・出来高



クラウド・サービス同業他社に対する週足相対パフォーマンス



サーバーワークス (4434)

サーバーワークスは、アマゾン・ウェブ・サービス (AWS) のインフラ構築、再販、保守・運用の受託 (マネージドサービスプロバイダー) など、AWSに特化したインテグレーション事業やサービスを提供するクラウドインテグレーターである。2010年からAWSを利用したホスティングサービスを提供しており、豊富なAWS導入実績に加え、自社開発した運用自動化サービスを強みに持つ。PERは68.8倍、PBRは2.93倍、無配。

テラスカイ (3915)

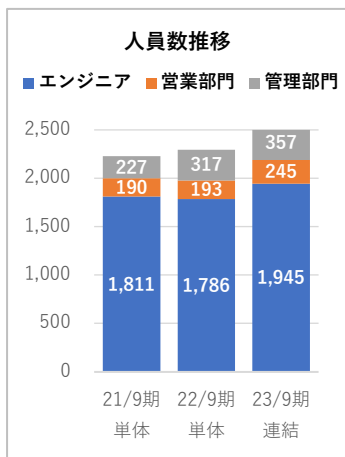
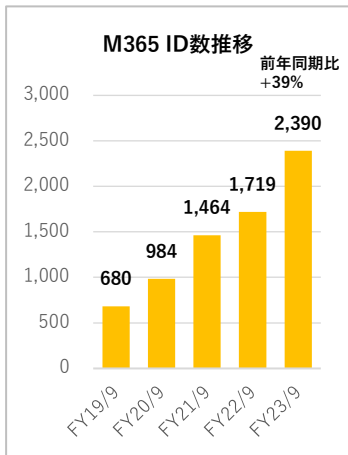
テラスカイは、CRMのセールスフォースを中心としたクラウドサービスの導入コンサルティングとシステム構築を主な事業としている。セールスフォースの導入実績は国内トップクラス。PERは80.3倍、PBRは1.88倍、無配。



Analyst's view







JBS 23/9期 連結決算業績および24/9期 期初予想

百万円、%	FY22/9	FY23/9	YoY	YoY	FY24/9	YoY	YoY
[J-GAAP]	単体実績	連結実績	金額*	%*	期初予想	金額	%
売上高	86,325	112,800	26,475	30.7	126,800	14,000	12.4
・クラウドインテグレーション	18,344	23,015	4,671	25.5	24,200	1,185	5.1
・クラウドサービス	13,371	15,389	2,018	15.1	18,400	3,011	19.6
・ライセンス&プロダクツ	54,593	74,381	19,788	36.2	84,200	9,819	13.2
売上高内訳(%)							
・クラウドインテグレーション	21.2%	20.4%			19.1%		
・クラウドサービス	15.5%	13.6%			14.5%		
・ライセンス&プロダクツ	63.2%	65.9%			66.4%		
売上総利益	10,877	13,077	2,199	20.2	15,600	2,523	19.3
売上総利益率(%)	12.6%	11.6%			12.3%		
販管費	6,825	8,884	2,059	30.2	10,500	1,616	18.2
売上高比率(%)	7.9%	7.9%			8.3%		
EBITDA	4,557	4,973	416	9.1	6,200	1,227	24.7
売上高比率(%)	5.3%	4.4%			4.9%		
営業利益	4,052	4,192	140	3.5	5,100	908	21.6
営業利益率(%)	4.7%	3.7%			4.0%		
・クラウドインテグレーション	2,800	3,537	737	26.3	3,920	383	10.8
・クラウドサービス	1,781	1,983	202	11.3	2,050	67	3.3
・ライセンス&プロダクツ	1,835	2,045	210	11.5	2,860	815	39.8
調整	-2,365	-3,380			(3,730)		
セグメント利益率(%)							
・クラウドインテグレーション	15.3%	15.4%			16.2%		
・クラウドサービス	13.3%	12.9%			11.1%		
・ライセンス&プロダクツ	3.4%	2.8%			3.4%		
経常利益	4,252	4,349	97	2.3	5,100	751	17.3
売上高比率(%)	4.9%	3.9%			4.0%		
親会社株主に帰属する当期純利益	2,647	3,350	703	26.6	3,450	100	3.0
ROE (%)	16.0%	16.0%			-		
1株当たり配当金(¥)	20.00	20.00			25.00		
配当性向(%)	30.3%	27.0%			33.0%		

\*注) 単体実績と連結業績予想の前年同期比は参考値である。  
出所: 同社IR決算説明会資料および決算短信よりSIR作成。

JBS、「Copilot for Microsoft 365」の活用ガイド「Copilot NAVI」をリリース

▼ Microsoft 365 Copilotは、AIを活用して様々な業務を支援する強力なアシスタントツールであるが、JBSは、企業ユーザーがその強力な機能を活用することで業務効率や生産性、創造性を高めることを支援するために、2023年11月20日、Copilot NAVIを正式にリリースした。



デスクトップ・アプリケーション  
におけるAIの力を解き放つ



## LEGAL DISCLAIMER

### ディスクレーマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や分析は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



**SESSAパートナーズ株式会社**

東京都港区麻布十番2-8-14 i-o Azabu 5a  
[info@sessapartners.co.jp](mailto:info@sessapartners.co.jp)